

塗料関係 JIS 制定・改正の動向

(社)日本塗料工業会
(財)日本塗料検査協会

1. 制定された規格

環境保全のため重金属を含まないさび止めペイントのJIS化が求められ、日本塗料工業会規格JPMS 26（りん酸塩系さび止めペイント）をベースにした下記のJIS規格が平成15年11月20日付けで制定されました。

JIS K 5674	鉛・クロムフリーさび止めペイント
------------	------------------

品質として、塗膜中の鉛 0.06%以下、塗膜中のクロム 0.03%以下であることが規定されています。なお、試験方法は原子吸光分析法によります。

2. 改正された規格

JIS K 5674 鉛・クロムフリーさび止めペイントの制定に伴い、「JIS K 5621 一般用さび止めペイント」は平成15年11月20日付けで改正され、適用範囲には「なお、JIS K 5674 に規定されている塗料は含まない。」と明記され、適用範囲の参考の表現が以下のとおり変更されました。

参考 この規格で規定する一般用さび止めペイントは、酸化による自然乾燥の液状塗料で、はけ塗り又は吹付け塗りに適し、さび止め成分が、酸化鉄、ボイル油又はフタル酸ワニスであり、ほかのさび止め顔料を用いていないものである。

3. 改正予定の規格

「JIS K 5600-1-4 試験用標準試験板」は、JIS K 5410 試験用試験板を含めた規格内容に変更され、JIS K 5410 は廃止されることになっています。

4. 制定作業中の規格

現在、下記規格の制定に向けて原案作成作業が行われております。

No. (案)	規格名(案)
5600-7-9 (制定)	塗料一般試験法—第7部：塗膜の長期耐久性—第9節： サイクル腐食試験方法—塩水噴霧／乾燥／湿潤
5600-9-1 (制定)	塗料一般試験方法—第9部：粉体塗料—第1節： 所定温度での熱硬化性粉体塗料のゲルタイムの測定方法
5600-9-2 (制定)	塗料一般試験方法—第9部：粉体塗料—第2節： 傾斜式溶融フロー試験
5600-9-3 (制定)	塗料一般試験方法—第9部：粉体塗料—第3節： レーザー回折による粒度分布の測定方法
5601-4-2 (制定)	塗料成分試験方法—第4部：塗膜からの放散成分分析— 第2節：揮発性有機成分（VOC）、ホルムアルデヒド及び 他のカルボニル化合物
5601-4-3 (制定)	塗料成分試験方法—第4部：塗料中の揮発性有機化合物（VOC） の測定—第3節：ガスクロマトグラフ法

ニ ュ ー ス

1. 理事・監事会開催

平成15年11月10日理事・監事会が開催され、平成15年度上半期（4月～9月）の収支状況と、本年度新たに開始した業務（JISマーク表示申請工場の認定業務及び建築基準法に基づく性能評価業務）の進捗状況が報告された。

2. 「建築材料からのホルムアルデヒド放散量に関する証明」業務開始のご案内

建築基準法が改正され、同法で定める告示対象建築材料については、ホルムアルデヒド放散等級を表示することが義務づけられました。

最近お客様より「告示対象外」の建築材料（例えば、塗料では建物外部用や工場塗装用など）についてもホルムアルデヒド放散等級を表示したいとの要望があります。当協会では、このような要望にお応えするため、告示対象外建築材料からのホルムアルデヒド放散量につい

て証明する業務を開始いたしましたのでご案内いたします。

証明料金 100,000円/件

（測定料金と消費税は別途申し受けます）

本件に関するご質問・お問い合わせは下記へお願いいたします。

財団法人 日本塗料検査協会 性能評価部 吉田洋一
〒251-0014 藤沢市宮前428 当協会東支部内
TEL 0466-27-1121 FAX 0466-23-1921
E-Mail y-yosida@abox9.so-net.ne.jp

3. JISマーク表示認定工場のお知らせ

JISマーク表示指定認定機関としての当協会が平成15年8月1日から10月31日迄の間に認定した工場は下表の通りです。

JISマーク表示認定工場一覧表（平成15年8月1日～平成15年10月31日）

認定番号	認定日	認定品目名	種別	該当JIS番号及び名称	会社、 <u>工事</u> 、事業所名
4849	平成15年8月11日	合成樹脂塗料	追加	JIS K 5583 塩化ビニル樹脂プライマー	関西ペイント株式会社 尼崎工場
5JP 0302	平成15年8月11日	ワニス・エナメル類	新規	JIS K 5670 アクリル樹脂系非水分散形塗料	関西ペイント株式会社 尼崎工場
			新規	JIS K 5970 建物用床塗料	
4JP 0301	平成15年9月25日	ワニス・エナメル類	新規	JIS K 5970 建物用床塗料	エーエスペイント株式会社
5JP 0303	平成15年10月17日	ワニス・エナメル類	新規	JIS K 5970 建物用床塗料	大都産業株式会社 枚方事務所

4. 建築基準法に基づく性能評価書の発行

建築基準法施行令第20条の5に基づく建築材料の性能評価を終え、当協会は平成15年8月1日から10月31日迄下記の性能評価書を発行しました。

「ISO/TC35/SC9国際会議に出席して」

(日本塗料検査協会 井関匠三氏)

参加は21社、41名であった。

(2) 平成15年11月26日セメダイン(株)茨城工場を見学

参加は12社、14名であった。

5. 塗料試験方法研究会活動

・東部会

(1) 平成15年8月1日東京塗料会館において講演会を開催

「各種促進耐候性試験機の調査研究報告」

(日本塗料工業会 耐候性連絡会幹事：

西村三津雄氏)

・西部会

(1) 平成15年9月5日第2回幹事会開催

15年度見学会、講演会の検討

(2) 平成15年6月6日及び10月24日IR分科会開催

活動計画策定及び現行スペクトル集への追録・削

除樹脂の検討

建築基準法に基づく性能評価書発行一覧表 (平成15年8月1日～平成15年10月31日)

評価番号	発行日	対象条文	対象告示	材料の名称	申請会社名
第JP0042号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	フローリング	UV硬化形塗料塗/ホワイトオーク単板張/尿素樹脂系接着剤塗/合板フローリング	株式会社アドヴェン
第JP0050号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	フローリング	UV硬化形塗料塗/集成材フローリング	新協商事株式会社
第JP0051号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	集成材	集成材	新協商事株式会社
第JP0052号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	塗料	油性系下地塗料	株式会社イケダコーポレーション
第JP0053号	平成15年9月22日	令第20条の5第4項	接着剤	ゴム系溶剤形接着剤	ノガワケミカル株式会社
第JP0054号	平成15年9月22日	令第20条の5第4項	接着剤	ゴム系溶剤形接着剤	ノガワケミカル株式会社
第JP0055号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	接着剤	フェノール樹脂を使用した接着剤	積水化学工業株式会社
第JP0056号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	集成材	集成材	株式会社赤尾建材
第JP0057号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	集成材	集成材	株式会社えびすや
第JP0058号	平成15年8月18日	令第20条の5第4項	フローリング	2液ポリウレタン塗料塗/集成材フローリング	大日本木材防腐株式会社
第JP0061号	平成15年9月22日	令第20条の5第4項	集成材	造作用集成材	和以美株式会社
第JP0062号	平成15年9月22日	令第20条の5第4項	フローリング	両面UV硬化形塗料塗/集成材フローリング	和以美株式会社
第JP0064号	平成15年9月22日	令第20条の5第4項	接着剤	ゴム系溶剤形接着剤	積水化学工業株式会社
第JP0065号	平成15年9月22日	令第20条の5第4項	仕上塗材	内装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材	株式会社アドヴェン

(3) 平成15年12月4日 大阪塗料会館において講演会
開催

「塗料及び接着剤とホルムアルデヒドの放散—建築
基準法改正への対応—」

(日本塗料検査協会 吉田洋一氏)

「耐候性試験機の調査報告」

(日本塗料検査協会 吉田洋一氏)

参加は26社、37名であった。

6. 外部発表一覧表

(財)日本塗料検査協会がこの半年間に外部発表したものは下表の通りです。

7. その他

当協会の前理事西支部長の芝野 日出夫氏は平成15年11月26日「平成15年度工業標準化功労賞（近畿経済産業局長賞）」を受賞した。

発 表 題 目	発表者 (共同発表者)	発表先・投稿誌名
実橋試験塗装 追跡調査報告	山田 卓司	(社)日本材料学会 第138回コンクリート工事用樹脂部 門委員会(15年6月30日)
再アルカリ化工法適用後のコンクリート に対する塗膜の適応性に関する検討	(山田 卓司)	コンクリート工学協会年次大会2003 (15年7月17日)
自然塗料及び塗料の建築基準法対応	橋本 定明	岐阜県生活技術研究所 第2回技術交流会(15年7月25日)
塗膜からのホルムアルデヒド放散量測定	吉田 洋一 表 悦子	塗装工学 vol. 38、No. 8(2003)
塗料や接着剤からのホルムアルデヒド放 散量測定について	吉田 洋一	(財)千葉市産業振興財団 住環境・省エネビジネススクール (15年8月26日)
塗装系防食剤の追跡調査に基づく耐久性 能評価と付着性能評価手法の提案	山田 卓司	コンクリート工学論文集 第14巻3号(15年9月発刊)
ASRにより劣化したコンクリート構造物に 対するFRPシートによる剥落防止対策につ いて	(山田 卓司)	(社)土木学会 第58年次学術講演会(15年9月25日)
道路付帯設備における定量的汚れ度合い 評価手法の検討	(山田 卓司)	(社)日本道路会議 第25回日本道路会議(15年11月5日)
自然塗料とホルムアルデヒドの放散	吉田 洋一	建築仕上技術 15年11月号
維持管理における今後の課題 —過大塗膜厚への対策—	桐村 勝也	Structure Painting 2003 Vol 31 29~31